

# 平成20年度 杉並区事務事業評価表

評価対象事務事業名		水辺環境の整備			20年度予算コード	2	整理番号	471	枝番号			
担当部課名	都市整備部 建設課		コード	221010	昨年度 整理番号	566 611						
係名	施設整備係		連絡先 電話番号	3428								
上位施策名		No	12	水辺とみどりの保全創出								
事務事業の概要	事業開始年度	<input type="radio"/> 昭和 <input checked="" type="radio"/> 平成	13 年度		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画事業	分野	政策 番号	(2)	施策 番号	事業 コード	1	
	事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 一部新規 <input type="checkbox"/> 臨時・単年度 <input type="checkbox"/> 内部管理		<input type="checkbox"/> 行革計画事業 <input type="checkbox"/> 協働計画事業		根拠法令等						
	対象	<input type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 区内3河川(神田川・善福寺川・妙正寺川)沿川の居住者及び利用者		(1) 地方自治法第281条 (2) 河川法第16条 (3) 特別区における東京都の事務処理の特例に関する条例								
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	人と水とのふれあいの場をつくり、潤いのある水辺環境を創出する。また、老朽化した河川施設の整備を進め、区民が安心して暮らせる河川環境の充実を図る。		事業の目標 (対象をどのような状態にしたいのか) 区民生活に安らぎや潤いを与え、生活活力の増進を図る。								
	活動指標名(式)	(1) 護岸緑化整備延長(累計) (2)		成果指標名(式) (代) = 適当な指標がない場合の代替指標 (1) 護岸緑化整備率 = (護岸緑化整備延長(累計) / 目標護岸緑化整備延長) × 100 (2) 「杉並区区民意向調査」により、みどりや水(河川等)とのふれあいを実感している区民の割合(単年度)								
区分		単位	18年度		19年度		20年度	目標値	目標値に対する19年度の達成率%			
			実績	計画	実績	計画	22年度					
指標	活動指標(1)		m	1,101	1,349	1,203	1,349	1,514	79.5			
	活動指標(2)											
	成果指標(1)		%	73	89	79	89	100	79.0			
	成果指標(2)		%	65.7	66.0	60.8	63.0	65.0	93.5			
総事業費・コスト把握	事業費		千円	59,251	58,676	56,357	89,448	特記事項 (指標、事業費等の 変化の理由など)				
	(内) 投資的経費等		千円	59,251	58,476	56,248	87,889					
	(内) 委託費		千円	59,251	58,476	56,248	87,889					
	職員数(常勤   非常勤)		人	0.90	1.20	1.24	2.55	活動指標(1)については、平成19年度の計画値(累計)に平成20～22年度施行予定の善福寺川鋼矢板護岸の緑化計画(累計)を加算し、目標値とする。なお、計画値及び目標値については、実施計画等の根拠となる数値との整合性もあるため、当該評価内では変更しない。 H20: 予定なし H21: L=82.5m H22: L=82.5m 成果指標(2)については、「杉並区区民意向調査」に基づく、みどりや水(河川等)とのふれあいを実感できる区民の割合に着目し、H22年度目標値を65.0%とした。H18年度の実績値として65.7ポイントを得ているが、H19年度調査において60.8ポイントと下降したため、H20年度以降の計画値を見直した。 H20: 63.0% H21: 64.0% H22: 65.0%				
	人件費	常勤職員分(超勤分含む)	千円	8,154	10,968	11,334	23,307					
		非常勤職員分	千円	0	0	0	0					
	総事業費 + +		千円	67,405	69,644	67,691	112,755					
	単位あたりコスト( - )÷		円	7,406	8,279	9,512	18,433					
	財源	受益者負担分		千円								
		国・都等からの支出金		千円								
特定財源計 +		千円	0	0	0	0						
差引: 一般財源 -		千円	67,405	69,644	67,691	112,755						
受益者負担比率 ÷		%	0.0	0.0	0.0	0.0						
19年度の主な取組み		内 容				規模	単位	事業費(千円)				
		河床保護工事				1,563	m <sup>2</sup>	23,100				
		河川護岸補修実施設計委託				1	式	16,275				
		河床保護工事の測量・設計委託				1	式	8,400				
		河川緑化工事				102	m	5,376				
		その他 (キロポスト設置工事等)						3,206				

# 平成20年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 471 枝番号

19年度予算執行状況 (節減努力・未達理由等)	活動指標(1)の 19年度達成率%	89.2	活動指標(2)の 19年度達成率%		19年度予算 執行率%	96.0
	概ね計画どおり執行した。					

前年度の改革案の取り組み状況 (20年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	河川施設においては、護岸・河床緑化、キロポスト整備や経年劣化に伴う護岸補修・河床保護等を計画的に進めている。東京都施行の護岸改修に併せ、後背地の公園を取り込んだ緩傾斜護岸の実現に向け、関係機関との調整等を行っている。また、平成20年度に新たな事業として、良好な河川環境の指標となる水鳥に着目し、潤いと安らぎのある水辺空間の創出を目的に、区民との協働により、善福寺川「水鳥の棲む水辺」創出事業に係る事業計画を策定する。
---	--

事業環境の変化	事業開始当初から 現在までの変化	親水性のある散歩道整備を目的として、平成13年度より立ち上げた事業であるが、財政状況も影響し、その整備内容は軌道修正を余儀なくされた。多額の整備費を投入した華やかなものではないが、河川をより身近なものとして感じられる装置(キロポスト整備・河川緑化等)に着目し、計画的に進めてきた。また、河川全般において、経年劣化による要改善箇所が多く見られる等の背景もあり、大規模な護岸・河床補修等に着手した。水辺広場の整備として、東京都施行の護岸改修に併せ、公園(済美公園)を取り込んだ緩傾斜護岸の整備に向け、関係機関との検討・調整を行っている。
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	河川については、治水・利水の役割だけでなく、貴重な水とみどりの空間として潤いを与えるとともに、様々な生物の多様な生息環境を形成するものとして、その役割は大きく見直されている。みどりと水の資源環境を大切にしたいとする区民意識の高揚を考慮しつつ、水を取り巻く環境づくりを積極的に推進することが期待されている。
	今後の予測	水辺は貴重な水とみどりの空間として、地域社会に潤いを与えるとともに、まちの景観形成や余暇の有効活用等において、重要な役割を果たしている。特に最近では、まちづくりの視点から周辺との一体的な水辺環境整備を図ることが社会的要請となりつつある。

事業のあり方点検	(1) 施策への貢献度は大きいのか 貢献度 大(理由 )	理由:水辺空間をみどりや水に親しめる環境に移行することは、失われつつある自然環境の保全・創造に大きく貢献し、区民の自然を大切に する意識をより高めていくとともに生活活力の増進が図れる。		
	(2) 現在の事業費で成果を向上させることができるか ある程度できる( )	理由または具体的内容:		
	成果向上のための方策 手段・方法の変更(具体的内容 )	理由または具体的内容:憩いや安らぎ、潤い等の視点から、整備に付 随する施設の更なる充実について検討を行う。		
	(3) 受益者負担の見直し余地は ない(理由 )	理由または具体的内容:水辺環境づくりにおいて、居住者や利用者 を限定することはできないため、受益者負担は不相当である。		
(4) コストを下げる余地はあるか ない(理由 )	理由または具体的内容:定期的に工法やコスト削減に関する検討を重 ね、改善に努めている。			

協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 十分に実現している( ^ )	協働等の今後のあり方:	<input checked="" type="radio"/> 実施継続	<input type="radio"/> 推進	<input type="radio"/> 行政直轄
	(2) 協働等の相手 企業・個人事業者( ^ )	協働等による成果と課題(実現していない場合は具体的な理由と今後の方策) 事業の性質上、施行にあたっての指示・確認は区自らが行う工事請負・委託形式が適切 と考える。多様化する地域住民のニーズに対し、自発性・機動性・先駆性等の特性を發揮 する「企業への委託(請負含む)」は住民サービスの質の向上に十分貢献でき、広い意味 での協働と考える。なお、事業量に対する委託費(委託料・工事請負費等)は既に業務量 の50%以上に達している。			
	(3) 協働等の形態 委託 [業務量の50%以上に相当] (具体的内容 )				

今後の事業のあり方 (中長期)	成果: <input checked="" type="radio"/> 増 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減	コスト: <input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減
	(1) 改革案の概要(いつまでに、どうかたちに) 事業のあり方点検欄を踏まえて記入 既定事業(河川改修計画・まちづくり計画等)と一体的に水辺空間の整備を図ることが社会的要請となりつつある。これらの実現に向け、 具体的な事業計画の検討を行う。また、河川における親水性の更なる充実を図るため、地域住民を巻き込んだソフト事業を継続的に展 開するとともに、東京都をはじめとした関係機関との連携による、水辺環境再生を視野に入れたハード事業の実現について検討・調整を 行う。また、区が単独で実施可能なハード整備事業についても新たなメニューの検討を行う。	
	(2) 改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法 整備実現に向け、具体的な整備主体(東京都及び区)、整備方法、予算措置(財源確保:補助金等の導入)等を明確にした 事業計画の推進が必要となる。	
21年度方針	(1) 21年度予算見積の方向性	<input checked="" type="radio"/> 大幅増 <input type="radio"/> 増 <input type="radio"/> 増減なし <input type="radio"/> 減 <input type="radio"/> 大幅減 <input type="radio"/> 予算なし
	(2) 理由 河川機能の保全・充実を図るため、護岸緑化や流域案内板設置を実施するとともに、優先的に補修・保護等を要する護 岸・河床において整備規模の拡大が生じたため、大幅な予算増が見込まれる。また、善福寺川「水鳥の棲む水辺」創出事 業の実施に伴う事業費が必要となる。	

# 平成20年度 杉並区事務事業評価表

評価対象事務事業名		みどりを育てる		20年度予算コード	1	整理番号	488	枝番号	
担当部課名	都市整備部みどり公園課		コード	221904		昨年度 整理番号	613～620、631～633		
係名	みどりの計画係		連絡先 電話番号	3593					
上位施策名		No	12		水辺とみどりの保全創出				
事務事業の概要	事業開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成		48年度		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画事業 分野			
	事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 一部新規 <input type="checkbox"/> 臨時・単年度 <input type="checkbox"/> 内部管理		<input type="checkbox"/> 行革計画事業			<input checked="" type="checkbox"/> 協働計画事業		
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他		根拠法令等 (1) 杉並区みどりの条例 (2) (3)					
	活動内容（事務事業の内容、やり方、手順）	緑化に関する印刷物の発行やみどりのボランティアの育成、みどりに関する講座の開催等を行う。		事業の目標（対象をどのような状態にしたいのか） 地域緑化に関する普及啓発事業の推進を通して、区民等の緑化意識の醸成を図る。					
	活動指標名(式)	(1) みどりの新聞の発行部数 (2) みどりの講座開催数		成果指標名(式) (代) = 適当な指標がない場合の代替指標 (1) みどりのボランティア杉並登録者数 (2) 講座への延べ参加者数					
指標	区分	単位	18年度 実績	19年度 計画	19年度 実績	20年度 計画	目標値 22年度	目標値に対する19年度の達成率%	
	活動指標(1)	人	70,000	70,000	70,000	70,000	70,000	100.0	
	活動指標(2)	回	7	20	8	10	10	80.0	
	成果指標(1)	人	166	150	168	150	150	112.0	
成果指標(2)	人	107	600	265	500	500	53.0		
総事業費・コスト把握	事業費	千円	11,035	45,258	31,991	14,344	特記事項 (指標、事業費等の 変化の理由など)		
	(内) 投資的経費等	千円	0	0	0	0			
	(内) 委託費	千円	2,848	32,880	24,482	6,720			平成19年度は、5年に1度のみどりの実態調査年であったため、事業費が増額になっている。
	職員数(常勤   非常勤)	人	3.90	3.90	4.37	3.95			
	人件費	常勤職員分(超勤分含む)	千円	35,334	35,646	39,942	36,103		
		非常勤職員分	千円	0	0	0	0		
	総事業費 + +	千円	46,369	80,904	71,933	50,447			
	単位あたりコスト( - )÷	円	662	1,156	1,028	721			
	財源	受益者負担分	千円	0	0	0	0		
		国・都等からの支出金	千円	0	0	0	0		
特定財源計 +		千円	0	0	0	0			
差引:一般財源 -		千円	46,369	80,904	71,933	50,447			
受益者負担比率 ÷	%	0.0	0.0	0.0	0.0				
19年度の主な取組み	内 容			規模	単位	事業費(千円)			
	登録ボランティアへの保険、資材提供等			1	式	233			
	みどりの講座の開催			8	回	411			
	みどりの新聞等印刷物の発行			73,600	部	3,590			
	みどりの普及啓発イベントの開催			2	回	409			
その他 ( )					27,348				

# 平成20年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 488 枝番号

19年度予算執行状況 (節減努力・未達理由等)		活動指標(1)の 19年度達成率%	100.0	活動指標(2)の 19年度達成率%	40.0	19年度予算 執行率%	70.7
		最小の経費で事業の執行努力を行ったが、みどりの実態調査委託において、契約額が設計額を大幅に下回ったため執行率が下がった。					
前年度の改革案の取り組み状況 (20年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)		前年度は、みどりの実態調査が5年に1度の実施年であったため、20年度予算額は大幅に減額となっている。					
事業環境の変化	事業開始当初から 現在までの変化	区内の緑の状況は、昭和47年より平成9年まで減少を続けていたが、平成9年を境に14年、19年と増加を示しており、概ね減少傾向に歯止めが掛かったものとする。					
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待 ・要望・苦情など)	区民の緑化意識の高まりを反映して、印刷物や講座に対する関心は高く、要望や投稿などがある。					
	今後の予測	元気な高齢者の増加とともに、益々緑化への関心は高まると予想している。					
事業のあり方点検	(1) 施策への貢献度は大きいか 貢献度 大(理由 )	地域の緑化は、公のみでなく、区民等の理解と実践が不可欠であることから、緑化に関する普及啓発事業は施策への貢献度が大きく大変重要である。					
	(2) 現在の事業費で成果を向上させることができるか ある程度できる( ) 成果向上のための方策 人件費・活動量の増加(具体的内容 )	手間と時間を掛ければ、これまで以上の成果をある程度得られる。  事業費を掛けるだけでなく、事業の性質上手間を掛けなければならないため、人件費を更に投入すれば成果向上が望める。					
	(3) 受益者負担の見直し余地は ない(理由 )	完全な受益者負担を導入すれば、受講料の増額をおこなうこととなり、高額な受講料では受講者が減少すると考える。					
	(4) コストを下げる余地はあるか ない(理由 )	緑化に関する普及啓発を主とする事業であることから、現在のコストは妥当と考える。					
協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 一部実現している( ^ )	協働等の今後のあり方:	<input checked="" type="radio"/> 実施継続 <input type="radio"/> 推進 <input type="radio"/> 行政直轄				
	(2) 協働等の相手 NPO・ボランティア・市民活動団体( ^ )	地域緑化を実践するボランティア活動を促進するため、みどりのボランティアの育成と支援を行い、地域緑化を協働により推進している。					
	(3) 協働等の形態 協働[事業協力](具体的内容 )						

今後の事業のあり方 (中長期)	成果: <input checked="" type="radio"/> 増 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減	コスト: <input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減
	(1) 改革案の概要(いつまでに、どうかたちに)    事業のあり方点検欄を踏まえて記入 緑化施策を規定する「杉並区みどりの基本計画」を21年度に全面改訂する予定であり、施策個々の進捗度や評価と合わせ、今後の区内のみどりを取り巻く状況に対応する緑化施策の再構築をはかる。	
21年度方針	(2) 改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法 緑化意識の普及と相対するものとしてみどりの保全がある。これに関しては様々な制度や仕組みがある。しかし、最終的には公有化しなければ緑の保全が困難な状況にある。一方で、区の財源は限られているため、最小の経費で緑を保全していくことの出来る事業・制度を案出することが求められている。	
	(1) 21年度予算見積の方向性	<input type="radio"/> 大幅増 <input checked="" type="radio"/> 増 <input type="radio"/> 増減なし <input type="radio"/> 減 <input type="radio"/> 大幅減 <input type="radio"/> 予算なし
	(2) 理由 みどりのベルトづくりモデル地区の事業推進と、みどりの基本計画の全面改訂業務の執行に伴い予算は増加する。	

# 平成20年度 杉並区事務事業評価表

評価対象事務事業名		みどりを創る みどりのリサイクル <small>20年度予算コード</small>			2	整理番号	489	枝番号				
担当部課名	都市整備部みどり公園課		コード	221908	昨年度 整理番号	621・622・623・624・626						
係名	みどりの事業係		連絡先 電話番号	3595								
上位施策名		No	12	水辺とみどりの保全創出								
事務事業の概要	事業開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成	48	年度	<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画事業	分野	政策番号	(2)	施策番号	事業コード	5・7	
	事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 一部新規 <input checked="" type="checkbox"/> 臨時・単年度 <input type="checkbox"/> 内部管理			<input type="checkbox"/> 行革計画事業	<input type="checkbox"/> 協働計画事業						
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他 緑化の助成 個人、事業者 学校接道部緑化・公共施設の緑化 区立学校、区立施設 みどりのリサイクル 公園、学校、河川、公共施設			根拠法令等 (1) 杉並区みどりの条例・杉並区みどりの条例施行規則 (2) 杉並区接道部緑化助成要綱 (3) 杉並区屋上・壁面緑化助成要綱							
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	・個人の建物の屋上や壁面に緑化をするときや道路に接した部分に生けがきなどを作るとき費用の一部を助成する。 ・学校の道路に接した部分に植樹帯などを設け緑化する。			事業の目標 (対象をどのような状態にしたいのか) 道路に接した部分を生けがきにしたり、建物の屋上や壁をみどりで覆うことにより安全でみどり豊かなまちなみ環境を創っていく。							
	活動指標名(式)	(1) 接道部緑化助成延長 (各年度700m) (2) 学校接道部緑化 (2校)			成果指標名(式) (代) = 適当な指標がない場合の代替指標 (1) 接道部緑化助成率: 整備延長 ÷ 整備計画延長 × 100 (2) 接道部緑化設置校率: 設置校数 ÷ 設置計画校数 × 100							
指標	区分	単位	18年度 実績	19年度 計画	19年度 実績	20年度 計画	目標値 22年度	目標値に対する19年度の達成率%	(この欄は斜線が入ります)			
	活動指標(1)	m	608	700	634	700	700	90.5				
	活動指標(2)	校	2	2	4	2	2	200.0				
	成果指標(1)	%	87	100	91	100	100	90.5				
	成果指標(2)	%	100	100	200	100	100	200.0				
総事業費・コスト把握	事業費	千円	86,113	107,190	95,293	111,761	特記事項 (指標、事業費等の 変化の理由など)					
	(内) 投資的経費等	千円	6,980	21,500	14,042	21,500						
	(内) 委託費	千円	76,941	92,350	83,049	96,773						
	職員数 (常勤   非常勤)	人	4.30	4.30	4.29	4.30	屋上・壁面緑化助成は東京都で義務付けされた部分の屋上・壁面部についても助成対象としたことさらに利用しやすくなった。					
	人件費	常勤職員分(超勤分含む)	千円	38,958	39,302	39,211						39,302
		非常勤職員分	千円	0	0	0						0
	総事業費 + +	千円	125,071	146,492	134,504	151,063						
	単位あたりコスト( - ) ÷	円	194,197	178,560	190,093	185,090						
	財源	受益者負担分	千円	0	0	0						0
		国・都等からの支出金	千円	0	0	0						0
特定財源計 +		千円	0	0	0	0						
差引: 一般財源 -		千円	125,071	146,492	134,504	151,063						
受益者負担比率 ÷	%	0.0	0.0	0.0	0.0							
19年度の主な取組み	内 容		規模	単位	事業費(千円)							
	公共施設の樹木管理(委託等)		265	所	67,657							
	学校接道部緑化		4	校	12,637							
	屋上緑化助成		461	m <sup>2</sup>	7,750							
	接道部緑化助成		634	m	4,411							
その他 (苗木の育成委託・落ち葉のリサイクル)				2,838								

# 平成20年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 489 枝番号

19年度予算執行状況 (節減努力・未達理由等)	活動指標(1)の 19年度達成率%	90.5	活動指標(2)の 19年度達成率%	200.0	19年度予算 執行率%	88.9
	接道部緑化は緑化計画書の提出に合わせて、対象となるものについては助成制度のPRを積極的に行った結果、ほぼ満額の執行となった。 学校接道部緑化については2校のところ4校緑化したが、各々の緑化整備延長については伸びなかった。					
前年度の改革案の取り組み状況 (20年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	接道部緑化助成も屋上・壁面緑化助成もPR効果が上がっており十分目標を達成できた。 学校接道部緑化については安全安心の管理が重要となり、ブロック塀や万年塀を取り除いてもしっかりとしたもので周囲を囲みたいとの学校側の意向があるので、生けがきのみでなく、フェンス緑化を中心に緑化を進めている。					

事業環境の変化	事業開始当初から 現在までの変化	接道部緑化助成制度は昭和53年度から緑化推進モデル地区内で行っていたが、昭和60年度には区内全域に拡大された。それと平行して他課で行われていたブロック塀の改善に対する助成や融資を12年度に見直し、現在の助成制度の体系となった。屋上・壁面緑化助成については平成14年度の10月より始まり、平成18年度に改正を行っている。学校の接道部緑化は万年塀やブロック塀を生けがきや植樹帯にする事業であったが、安全安心の観点から、フェンス緑化が主流になってきている。
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待・要望・苦情など)	助成制度では壁面に対する㎡当りの助成額が少ないこと、既存建物の緑化条件が厳しいことが指摘されている。学校の接道部緑化は犯罪などの安全面の話からすると強固な囲いを必要とするためブロック塀や万年塀をはずし生けがきにするだけでは難しい。
	今後の予測	屋上・壁面緑化助成制度については常時荷重などの建物安全面からも新築物件を中心に推移すると思われる。学校接道部緑化は安全安心の考えからフェンス緑化を中心に設置していく。

事業のあり方点検	(1) 施策への貢献度は大きいか 貢献度 大(理由 )	理由: 民間のみどりを増やし、公共の緑化を推進することにより、まち全体がみどり豊かになってきている。平成19年度みどりの実態調査で接道部緑化率は、目標の20%を超え23%446,000mとなった。
	(2) 現在の事業費で成果を向上させることができるか できる( ^ ) 成果向上のための方策 手段・方法の変更(具体的内容 )	理由または具体的内容:  理由または具体的内容: 緑化計画書提出時にあわせて助成制度の案内をする。窓口配布用の助成制度案内のチラシをより分かりやすい物に修正し、HPIにも載せるなど、広くPR事業を行う。
	(3) 受益者負担の見直し余地は ない(理由 )	理由または具体的内容: 緑化計画の中で緑化を義務付けている為その費用の一部を助成している。みどりを作り出すきっかけとなることから助成内容を一層充実していく必要がある。 学校接道部緑化については区自ら施設緑化をするため見直しの余地はない。
	(4) コストを下げる余地はあるか ない(理由 )	理由または具体的内容: みどりを作り出す有効な手段である為より充実する必要がある。

協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 一部実現している( ^ )	協働等の今後のあり方:	<input checked="" type="radio"/> 実施継続 <input type="radio"/> 推進 <input type="radio"/> 行政直轄
	(2) 協働等の相手 企業・個人事業者( ^ )	協働等による成果と課題(実現していない場合は具体的理由と今後の方策)	
	(3) 協働等の形態 協働[補助・助成](具体的内容 )	道路に接した部分の生けがき等を作る場合や、屋上・壁面緑化をする場合の工事費の一部を助成している。私有地のみどりを増やす手段として大変有効である。	

今後の事業のあり方 (中長期)	成果: <input checked="" type="radio"/> 増 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減	コスト: <input checked="" type="radio"/> 増 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減
	(1) 改革案の概要(いつまでに、どうかたちに)    事業のあり方点検欄を踏まえて記入 接道部、屋上・壁面緑化助成のPRに一層努めていく。また、壁面緑化については、多様な手法がはじめており、助成額の㎡単価が現状に即していない。壁面緑化の申請率を上げるため、助成単価の見直しを検討する。	
	(2) 改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法 屋上・壁面緑化助成制度の限度額100万円は、他の自治体に比べても魅力的である。限度額を下げると、手続きが大変な割りに魅力がなくなってしまう。また、多くの人に利用してもらいたい反面、予算額から希望者がすべて受けられない可能性がある。	
21年度方針	(1) 21年度予算見積の方向性	<input type="radio"/> 大幅増 <input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 増減なし <input type="radio"/> 減 <input type="radio"/> 大幅減 <input type="radio"/> 予算なし
	(2) 理由	現状では予算額を満額使っていないので現状維持。PRに一層努め、利用しやすい制度に再度検討を加える。

# 平成20年度 杉並区事務事業評価表

評価対象事務事業名		みどりを守る		20年度予算コード	3	整理番号	490	枝番号	1			
担当部課名	都市整備部みどり公園課		コード	221908		昨年度 整理番号	625・627・628・629・630					
係名	みどりの事業係		連絡先 電話番号	3595								
上位施策名		No	12		水辺とみどりの保全創出							
事務事業の概要	事業開始年度	<input checked="" type="radio"/> 昭和 <input type="radio"/> 平成		48 年度		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画事業		分野	政策番号 (2)	施策番号	事業コード	6
	事業の種類	<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 一部新規 <input type="checkbox"/> 臨時・単年度 <input type="checkbox"/> 内部管理				<input type="checkbox"/> 行革計画事業		<input type="checkbox"/> 協働計画事業				
	対象	<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他				根拠法令等 (1) 杉並区みどりの条例 (2) 杉並区みどりの条例施行規則 (3) 杉並区貴重木保全事業実施要綱						
	活動内容 (事務事業の内容、やり方、手順)	区内で開発・建築行為等を行う業者と区民に緑化計画書の提出(接道部緑化、緑地の確保、高木中木低木の本数の確保)を義務付けている。保護指定制度については一定基準以上の樹木、樹林、生けがきを所有者の申し出により保護樹木指定等をし、補助金を交付する。				事業の目標 (対象をどのような状態にしたいのか) 大きな樹木や樹林を所有者の同意のもと指定し保全していく。特に未来に残したい巨木や珍木については貴重木として指定し手厚く保全していく。また、緑化計画書の中でみどりの確保を行い、まち全体に均一的に緑地を確保する。						
	活動指標名(式)	(1) 貴重木指定本数 (2) 保護樹木指定本数				成果指標名(式) (代) = 適当な指標がない場合の代替指標 (1) 貴重木保全率: 貴重木指定本数 ÷ 貴重木保全計画本数 × 100 (2) 保護樹木継続率: 今年度樹木数 ÷ 前年度樹木本数 × 100						
指標	区分	単位	18年度 実績	19年度 計画	19年度 実績	20年度 計画	目標値 22年度	目標値に対する19年度の達成率%				
	活動指標(1)	本	46	50	46	50	50	92.0				
	活動指標(2)	本	1,677	1,900	1,688	1,900	1,900	88.8				
	成果指標(1)	%	92	100	92	100	100	92.0				
成果指標(2)	%	100	100	101	100	100	100.6					
総事業費・コスト把握	事業費	千円	53,986	65,885	55,480	72,878	特記事項 (指標、事業費等の 変化の理由など)					
	(内) 投資的経費等	千円	0	300	299	9,204						
	(内) 委託費	千円	17,031	19,380	18,143	27,397						
	職員数(常勤   非常勤)	人	4.30	4.30	4.30	4.30						
	人件費	常勤職員分(超勤分含む)	千円	38,958	39,302	39,302	39,302					
		非常勤職員分	千円	0	0	0	0					
	総事業費 + +	千円	92,944	105,187	94,782	112,180						
	単位あたりコスト( - ) ÷	円	2,020,522	2,097,740	2,053,978	2,059,520						
	財源	受益者負担分	千円	0	0	0	0					
		国・都等からの支出金	千円	0	0	0	0					
特定財源計 +		千円	0	0	0	0						
差引: 一般財源 -		千円	92,944	105,187	94,782	112,180						
受益者負担比率 ÷	%	0.0	0.0	0.0	0.0							
19年度の主な取組み	内 容		規 模		単 位	事業費(千円)						
	樹木・樹林・生けがき・貴重木の保護指定		補助金交付 延13,133		件	38,380						
	区営苗圃の維持管理(委託等)		8,138		m <sup>2</sup>	12,981						
	寄付樹木の活用(委託等)		47		本	2,697						
	生き物生息場所の保全・創出		保全 1 創出 2		所	1,051						
その他 (緑化指導・市民緑地)					371							

# 平成20年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 490 枝番号 1

19年度予算執行状況 (節減努力・未達理由等)	活動指標(1)の 19年度達成率%	92.0	活動指標(2)の 19年度達成率%	88.8	19年度予算 執行率%	84.2
	貴重木については50本を指定したが、相続や土地の売却によって維持できずH19年度末は46本を指定している。杉並区の未来にわたり残したい木に指定しているが、相続の問題が発生する土地の売却や開発が行われ残すことは難しい。					
前年度の改革案の取り組み状況 (20年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)	建築行為を行う場合、敷地面積に関係なく緑化計画書(敷地面積200㎡以上)または緑化計画概要書(敷地面積200㎡未満)を提出してもらう。すべての行為に対し提出してもらう為、杉並区では緑化計画をしなければならないとの認識ができつつある。杉並区のみどりを守る上で一番安くしかも効果のある手法である。					

事業環境の変化	事業開始当初から 現在までの変化	保護指定制度はみどりの条例ができた当初から柱となる制度で、今あるみどりを指定することで未来にわたり残す制度である。保護樹木は指定と解除が半分半分の為、指定本数事態はほぼ横ばいとなっているが、保護樹林は徐々に減少している。
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待 ・要望・苦情など)	保護指定された樹木の近隣住民の苦情が多い。日照、落葉、掃除、樹液、虫などで所有者が何も対応しない事や補助金給付への不満が大きい。所有者は、「地球温暖化防止に貢献している。剪定費用は捻出できない。保護指定された木は切れない」等主張。樹木の維持管理は所有者の責務だが、実際の経費に対して小額な補助金のため、強く維持管理を求めるのも厳しい。民有地での樹木と人との共存は難しくなっており、公共施設での緑地確保を求める声が大きい。
	今後の予測	所有者の高齢化が顕著になってきている。今後相続税の問題や年金生活により剪定費用の負担ができない、体が思うように動かない為清掃ができない等により、周辺の住民とのトラブルが更に増えると考えられる。

事業のあり方点検	(1) 施策への貢献度は大きいのか 貢献度 中(理由 )	理由:所有者の同意で保護指定をする為、解除も簡単にできる。保護をしていてもすぐに形態を変えられるため制度としては不安定。
	(2) 現在の事業費で成果を向上させることができるか できない(理由 ) 成果向上のための方策 事業費・活動量の増加(具体的内容 )	理由または具体的内容:現状の補助金額では樹木や樹林を継続して守る強い拘束力はない。 理由または具体的内容:最優先に守る樹木樹林の選別と、剪定費用の一部助成金制度の導入。雨どいの保護カバーの助成など、樹木と人の共存に向けた方策が必要。
	(3) 受益者負担の見直し余地は ない(理由 )	理由または具体的内容:大木等の剪定には費用が大変かかり、補助金の額はそれを賄えるほどの額になっていない。現状でも所有者の負担は大きい。
	(4) コストを下げる余地はあるか ない(理由 )	理由または具体的内容:大木等の剪定には費用が大変かかる為難しい。

協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 一部実現している( ^ )	協働等の今後のあり方: <input checked="" type="radio"/> 実施継続 <input type="radio"/> 推進 <input type="radio"/> 行政直轄
	(2) 協働等の相手 企業・個人事業者( ^ )	協働等による成果と課題(実現していない場合は具体的理由と今後の方策) 保護樹木等の所有者に維持管理に要する費用の一部を補助金として交付している。
	(3) 協働等の形態 協働[補助・助成](具体的内容 )	

今後の事業のあり方 (中長期)	成果: <input checked="" type="radio"/> 増 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減	コスト: <input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減
	(1) 改革案の概要(いつまでに、どうするかたち) 事業のあり方点検欄を踏まえて記入 次回のみどりの実態調査にあわせ、貴重木以外の現存の保護樹木、保護樹林を未来にどう残すか優先順位をつけ、補助金額を2ランクに分ける。それに合わせ剪定費用の一部を助成する制度を新たに立ち上げる。また、雨どいカバーの助成を区内全域を対象に行う。	
21年度方針	(2) 改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法 樹木、樹林をどう基準でランク分けするかが難しい。ランクの低い樹木、樹林については一気に開発が進む可能性が高い。保護指定件数が23区内でも多い為、手厚く保護するには限界がある。まちづくりの全体計画の上で、バランスを取りながらみどりを配置するなどの手法が考えられる。民有のみどりは最終的には個人の意思で失われる可能性があるため、区でも残す為の努力をする必要がある。	
	(1) 21年度予算見積の方向性	<input type="radio"/> 大幅増 <input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 増減なし <input type="radio"/> 減 <input type="radio"/> 大幅減 <input type="radio"/> 予算なし
(2) 理由 保護指定制度の十分な検討を必要とする。		



# 平成20年度 杉並区事務事業評価表

評価対象事務事業名		みどりの基金			20年度予算コード	4	整理番号	490	枝番号	2	
担当部課名	都市整備部みどり公園課		コード	221904		昨年度 整理番号	620				
係名	みどりの計画係		連絡先 電話番号	3593							
上位施策名		No	12		水辺とみどりの保全創出						
事務事業の概要	事業開始年度		○昭和 ●平成		14年度		<input checked="" type="checkbox"/> 実施計画事業                 分野 1 政策番号 2 施策番号 1 事業コード				
	事業の種類		<input type="checkbox"/> 新規 <input type="checkbox"/> 一部新規 <input type="checkbox"/> 臨時・単年度 <input type="checkbox"/> 内部管理				<input type="checkbox"/> 行革計画事業 <input type="checkbox"/> 協働計画事業				
	対象		<input checked="" type="checkbox"/> 個人 <input type="checkbox"/> 世帯 <input checked="" type="checkbox"/> 団体 <input checked="" type="checkbox"/> その他		基金に寄付を寄せる個人、団体、事業者		根拠法令等				
	活動内容（事務事業の内容、やり方、手順）		区内のみどりの保全及び緑化の推進に関する事業の財源に充てるため、区民、事業者及び区が協働して寄付を募る。		事業の目標（対象をどのような状態にしたいのか）		当面、積立額5億円を目標とする。				
	活動指標名(式)		(1) 基金寄付件数 (2) 継続寄付団体等		成果指標名(式) (代) = 適当な指標がない場合の代替指標		(1) 年間寄付等総額 (2) 継続寄付団体等寄付総額				
指標		区分	単位	18年度 実績	19年度 計画	20年度 計画	目標値 22年度	目標値対 する19年度 の達成率%	特記事項 (指標、事業費等の 変化の理由など)		
		活動指標(1)	件	16	50	27	50	100			27.0
活動指標(2)	件	5	10	7	10	10	70.0				
成果指標(1)	千円	339	10,000	1,188	10,000	10,000	11.9				
成果指標(2)	千円	240	500	267	500	500	53.4				
総事業費・コスト把握	事業費		千円	604	10,170	1,188	10,336	成果指標(1)については、計画を寄付の見込み額としている。			
	(内) 投資的経費等		千円	0	0	0	0				
	(内) 委託費		千円	0	0	0	0				
	職員数(常勤   非常勤)		人	0.10	0.10	0.05	0.05				
	人件費	常勤職員分(超勤分含む)	千円	906	914	457	457				
		非常勤職員分	千円	0	0	0	0				
	総事業費 ++		千円	1,510	11,084	1,645	10,793				
	単位あたりコスト( - )÷		円	94,375	221,680	60,926	215,860				
	財源	受益者負担分		千円	0	0	0				0
		国・都等からの支出金		千円	0	0	0				0
特定財源計 +		千円	0	0	0	0					
差引: 一般財源 -		千円	1,510	11,084	1,645	10,793					
受益者負担比率 ÷		%	0.0	0.0	0.0	0.0					
19年度の主な取組み		内 容					規模	単位	事業費(千円)		
		みどりの基金の増収策、用途の検討					1	式	0		
		みどりの基金のPR					1	式	0		
		その他 ( )							1,188		

# 平成20年度 杉並区事務事業評価表

整理番号 490 枝番号 2

19年度予算執行状況 (節減努力・未達理由等)		活動指標(1)の 19年度達成率%	54.0	活動指標(2)の 19年度達成率%	70.0	19年度予算 執行率%	11.7
		PR不足などによる区民等の認知度や寄付意識が低いことにより、寄付件数と寄付額が少ないため積立額が増えない。					
前年度の改革案の取り組み状況 (20年度予算を削減または増額している場合、関連する新規事業がある場合にはその概要も明記)		新規のパンフレットづくりと合わせ、基金の使い道のあり方を含めて基金運営要綱の見直し検討を進めている。					
事業環境の変化	事業開始当初から 現在までの変化	年間の寄付総額が小額のまま推移している。					
	事業に対する住民の意見 (事業に対する期待 ・要望・苦情など)	基金の使い道に人材育成などが色濃く出ていることから、そうした使われ方なら寄付しないと 言う区民意見がある。一方、チャリティーコンサートを企画実施するなど、協力する団体も現れ てきている。					
	今後の予測	このままの運営状況では、基金の増額は望めない。					
事業のあり方点検	(1) 施策への貢献度は大きいか 貢献度 大(理由 )	施策の成果やPRなど、貢献度は大きい。					
	(2) 現在の事業費で成果を向上させることができるか できない(理由 )	積立額が小額である。					
	成果向上のための方策 手段・方法の変更(具体的内容 )	基金の活用目的を区民の寄付意識を高められるよう、貴重な樹木や樹林の保全に活用するなど、限定的にするなどして積極的に寄付を募るPRを行う。					
	(3) 受益者負担の見直し余地は ない(理由 )	受益者負担を考える事業ではない。					
	(4) コストを下げる余地はあるか ない(理由 )	区民等からの寄付金を積み立てる事業であり、最小の経費で事務を行っている。					
協働等点検	(1) 協働等は実現しているか 十分に実現している( ^ )	協働等の今後のあり方:		<input checked="" type="radio"/> 実施継続 <input type="radio"/> 推進 <input type="radio"/> 行政直轄			
	(2) 協働等の相手 NPO・ボランティア・市民活動団体( ^ )	基金への寄付を募る活動など積極的に協働して進めている。					
	(3) 協働等の形態 協働[その他](具体的内容 )						

今後の事業のあり方 (中長期)	成果: <input checked="" type="radio"/> 増 <input type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減	コスト: <input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減
	(1) 改革案の概要(いつまでに、どうかたちに)    事業のあり方点検欄を踏まえて記入 「緑の募金」との関係や基金の用途を基金への寄付意識を醸成するため、限定的使い道とすることなどによって、積極的に寄付の呼びかけを行い基金残高の増額を目指す。	
(2) 改革案を実施するにあたっての阻害要因と克服方法 緑の募金法による「緑の募金」活動との棲み分けを明確にすることが必要である。また、基金を活用して保全する緑と保全努力する緑の分類基準づくりは大変困難である。		
21年度方針	(1) 21年度予算見積の方向性	<input type="radio"/> 大幅増 <input type="radio"/> 増 <input checked="" type="radio"/> 増減なし <input type="radio"/> 減 <input type="radio"/> 大幅減 <input type="radio"/> 予算なし
	(2) 理由 基金の増額を図るため、区民等から寄付が寄せられた場合、行政から最低同額の積立をするなど、基金の積立を区民等と行政が協働して実践していることが明確に分かる仕組みを確立する。	